巻頭言

# 学会の将来の発展に向けて

規格調査会委員長　柳井　久義

本学会も創立75周年を来年に控え，その扱う範囲も世の中の飛躍的な進歩・発達に応じて急速に拡大しつつ，会員数も38,000名以上の大学会に成長して，工学・技術関係の主要な学会として発展しつつあることは，誠に喜ばしいことと思う．

しかし一方，世界は今や21世紀に向けて，政治・経済から社会構造，産業構造，更には本学会に関係の深い科学，工学，技術の面ですら大きな変革期にあって，その変り方は今世紀までの歴史の延長上では扱い切れないほど抜本的なもののように見受けられる．本学会としても，将来の発展と変化への対応のために，将来構想委員会や理事会などを中心に，その体制や活動，運営方法の在り方について，積極的な対策が講じられつつあることは，高く評価されて良いことであろう．ただここで，失礼を顧みず敢えて言わせて頂くとすれば，考え方の中に，なお従来の学会の在り方の影が尾を引いているのではなかろうか，と危惧される点があることであろう．

欧米の工学関係の学会では，技術者，同業者の集りとして生れ，その利益集団として学会活動をし，育って来たように思われる面が多々ある．これに対し我が国では，形は似ているが，研究中心，学問・技術中心の学会活動の面に重点があって，一般会員へのサービスという点では，いささか疎かな面があったのではなかろうか．世の中の変化に対応して，このところ，諸外国の学会誌を見てもその編集が大変変って来つつあるようにも見受けられる．年を取り，第一線を離れて勉強しなくなった当方も悪いので，口幅ったいことも言えないが，もう少し親しみやすい学会であって欲しいと思う会員もかなりあるのではないかと思う．ただこのことは大変難しい問題であって簡単に解決できないが，若い会員の増加率が低いこととも関係しているから，将来の学会の発展を考えた場合，重要なことであろう．

これは，我が国の機械のマニュアルが，関係者が大変苦労して作っておられるにもかかわらず，専門的だったり，当り前のことが抜けて詳し過ぎたりして，ユーザから見ると非常にわかり難いという点と一脈相通ずるものがあり，幅広い会員の立場に立った，会員のための学会という観点にも，大いに意を用いて頂きたいという感じがしないでもない．


| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 会　長 | 熊谷信昭 | 編集長 | 関口利男 | 北海道支部長 | 森下俊三 |
| 副会長 | 大越孝敬・古賀利郎 | 規格調査会委員長 | 柳井久義 | 東北支部長 | 梅　良之 |
| | 末松安晴・稲場文男 | 研究組織委員会委員長 | 榎本　肇 | 東京支部長 | 桑原守二 |
| 総務理事 | 佐々木元・甘利俊一 | 基礎・境界研究グループ運営委員会委員長 | 有本　卓 | 信越支部長 | 真柄成一 |
| 会計理事 | 西川清史・高梨裕文 | | | 北陸支部長 | 小泉卓也 |
| 編集理事 | 青山友紀・後藤　敏 | 通信研究グループ運営委員会委員長 | 安田靖彦 | 東海支部長 | 鈴村宣夫 |
| | 中村道治・原島　博 | | | 関西支部長 | 山本誠實 |
| 企画理事 | 下村尚久・田崎公郎 | エレクトロニクス研究グループ運営委員会委員長 | 佐々木昭夫 | 中国支部長 | 中山　浩 |
| 調査理事 | 堀口孝雄・柳川隆之 | | | 四国支部長 | 牛田明夫 |
| 監　事 | 黒川兼行・池田博昌 | 情報・システム研究グループ運営委員会委員長 | 辻　三郎 | 九州支部長 | 長田　正 |

社団法人 電子情報通信学会　105　東京都港区芝公園3-5-8　機械振興会館内　電話(03)3433-6691(代)　振替口座　東京2-35300番